

第2章 市民・事業者の協働による地域情報化の推進

2.1 地域情報化推進法人設立の背景及び経緯

「特定非営利活動法人 調布市地域情報化コンソーシアム(Chofu Local Information Consortium) 略称:CLIC(クリック)(以下、CLIC と略)」は、「調布市地域情報化基本計画」の推進団体として、調布市地域情報化基本計画策定委員会のもとで活動していた市民主体のワーキンググループWG3(地域産業の活性化)とWG4(暮らしを支えるネットワークづくり)のメンバーが中心となり、以下のような背景のもとで2004年9月に設立されました。

【法人設立の背景】

「情報化」というと、すぐ「IT」や「通信技術」と考えますが、情報を発信するのも、受信するのも「人」なので、「地域情報化」も「人」で始まり「人」で終わると言えます。「IT」や「通信技術」は情報化の手段でしかありません。

さて、「人」は、現在様々な媒体を通して情報を伝達しています。しかし、情報媒体の多様化に伴い情報が過多になり、情報の選択が難しくなっています。一方で市民のニーズは多様化し、広範囲に渡っているため、「市民の利便性向上に必要な情報を、いつでも、手軽に届けること」が益々困難になっています。そのため、例えば、

10メートル先にあるお店で買える品物を知らないばかりに、車や電車で遠くまで出かけて買いに行ってしまう。

多くの市民団体・サークルが抱える問題として、「なかなか会員が集まらない」「セミナーやイベントを開いても人が集まらない」という状況がある一方、市民がその情報を知らず、情報が双方向に行き交っていないという現実があります。

現在では、情報伝達手段の発展により、地域の多様な情報を、多くの人々に、素早く届けることが技術的に可能になりました。一方で、地域で発生する問題は、益々増加し且つ深刻化しており、この地域問題の原因のほとんどは、地域コミュニティの希薄化にあると考えています。

したがって、地域情報をいつでも手軽に得られるようにする事が、地域への理解と市民の連携を深め、生活環境や地域経済を改善して**地域コミュニティを活性化**し、地域社会の問題解決に貢献すると考えられます。

「CLIC」は、地域情報化により「**地域コミュニティの活性化**」に寄与することを大きな目的としています。

地域情報化推進法人の設立の経緯および助成金などの申請状況を、表 2.1 および表 2.2 に示します。

表 2.1 地域情報化推進法人の設立の経緯

平成 16 年 1 月	「調布市地域情報化基本計画書」がほぼ完成されたのを契機に、これまでワーキンググループとしての活動で議論を重ねてきた計画内容についての具体的な実施に向けて、なるべく早期に取り掛かりたいという思いと、WG3(産業活性化グループ)に参加した人たちからの強い要望により、実施組織を立ち上げるべく話し合いがすすめられてきました。
平成 16 年 2 月	上記 WG3 での論議から、実施や推進にあたっては従来の WG3 の枠組みではなく広く市民との協働で統合的にすすめるべきとの方向が提案されました。産業活性化には消費者である市民との連携はかせないものであると同時に、まちの活性化には商店や事業所の活性化もかせないことから、両者による協働が望ましいと考えました。 同時に根本的なこととして、誰でも自由に参加できること、責任意識を持って参加できるような組織であることが重要性であり、組織形態として NPO が相応しいと確認されました。
平成 16 年 2 月	後に基本計画に盛り込まれる「1 店 1 事業所 1 ホームページ事業」の企画が、東京都及び(財)東京都中小企業振興公社主催「平成 15 年度進め！若手商人育成事業」「若手商人研究会」にて、都下全 8 グループの中、東京都産業労働局長賞(グランプリ)を受賞。
平成 16 年 2 月	地域情報化協働 NPO 設立
平成 16 年 2 月 25 日	「調布市地域情報化基本計画策定委員会」にて報告
平成 16 年 3 月初旬	ワーキンググループ(WG)中、市民が座長を務めていた 2 つの WG、WG3 と WG4 の各代表者による会議により、市民・事業者協働で実施に向けた取組みを行うこと、その母体を作ることで一致しました。
平成 16 年 5 月 14 日	NPO 法人化に向けて準備委員会開催。 団体の名称を、「調布市地域情報化コンソーシアム：Chofu Local Information Consortium (略称 CLIC)」とすることに決定。
平成 16 年 5 月 24 日	第 2 回法人申請準備委員会
平成 16 年 6 月 11 日	第 3 回法人申請準備委員会

平成 16 年 6 月	東京都に特定非営利活動法人申請書提出
平成 16 年 9 月	法人認証決定通知受理

表 2.2 助成金の申請等

平成 16 年 2 月	財団法人地域総合整備財団「e - 地域ビジネス助成金」への応募を調布市生活文化部産業振興室とともに開始
平成 16 年 3 月 15 日	財団法人地域総合整備財団「e - 地域ビジネス助成金交付事前申請書」への東京都意見書受領(申請書必須項目)
平成 16 年 3 月 23 日	財団法人地域総合整備財団へ「e - 地域ビジネス助成金交付事前申請書」提出 (→残念ながら不採択)
平成 16 年 5 月	内閣官房都市再生本部「全国都市再生モデル調査」を調布市の推薦を得て応募(→残念ながら不採択)

2.2 CLIC の目的と概要

(1) CLIC の目的

この法人 CLIC は、調布市内を対象として、地域コミュニティの情報交流の場としての「地域ポータルサイト」及び、市民の利便性向上の為に「情報収集・伝達媒体」の普及事業・啓蒙事業、これの活用に関する支援事業、並びにこれに係る社会教育事業等の社会貢献活動を行い、地域社会の問題解決して、**社会福祉の発展並びに地域コミュニティの活性化に寄与すること**を目的としています。

また、「調布市地域情報化基本計画」の実行・推進を通して、上記目的を達成し、当団体が調布市における地域情報化の拠点となることを目指しています。またこのような事業をより継続性・公平性ある活動とすべく、また責任ある組織として活動していくため、特定非営利活動促進法に基づく法人申請が行われ、特定非営利活動法人格を取得しています。

(2) 構成メンバーの概要

上記のように、この法人は産業分野のWG3と、一般市民のWG4との協力で誕生しました。法人が活動を続けるためには運営等に必要な資金を確保する必要があり、このため市内の商工業者と良い関係を保つことは重要になります。例えば、地域商工業者に対して何らかの協力ができれば、相応の負担への理解を求めることが可能です。また、この法人が地

域商工業者と交流することにより、NPOやコミュニティビジネスについての知識や、商工業者が持つ専門知識や経営手法などについて学び合うことが可能となり、地域の活性化に繋がることも期待できます。

その面でも、産業分野と市民分野のワーキンググループが集まって設立した意義は大変大きく、表 2.3 に示されているように設立メンバーの所属団体は非常に多岐に渡っています。

表 2.3 設立メンバーの所属団体一覧表

産業分野	市民活動分野	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・調布市商工会(同青年部) ・調布市商業連合会 ・社団法人調布青年会議所 (同シニアクラブ) ・若手商人塾 ・武蔵府中法人会(同青年部) ・東京税理士会武蔵府中支部 ・東京都商工会連合会 ・産学公連携推進研究会 ・マインズ農業協同組合 ・東京調布むらさきロータリー クラブ ・調布市勤労者互助会 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな de ねっと ・調布パソコンサークル ・NPO 法人 市民活動推進協会 ・やあやあネットワーク ・NPO 法人調布まちづくりの会 ・調布市生涯学習推進協議会 ・第3次調布市地域福祉活動 計画策定委員会 ・FC東京調布市民の会 ・FC東京スポーツボランティア ・調布地区防犯協会 ・調布市交通安全協会 ・ちょうふ地域通貨さ～らの会 ・野川で遊ぶまちづくりの会 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・調布市観光協会 ・NPO 法人調布フィルムコミッション ・NPO 法人ちょうふどっとこむ ・社団法人日本インターネット プロバイダー協会 ・NPO 法人地域ポータルサ イト推進協会 ・地域サイトネットワーク 等

「CLIC」は、人とのつながりを基本とした地域情報化による「地域コミュニティの活性化」を目的とするものであり、誰でも気軽に参加できる組織を目指しています。また、情報化を通して、あるいは利用して、よりよい地域コミュニティ作りを考えている団体の協働参加が期待されています。

2.3 事業計画と今後の展望

(1) 事業計画

「CLIC」の事業計画については、現在のところ表 2.4 のような活動が計画されています。

表 2.4 CLIC における当面の主要な活動計画

市民活動分野	<ol style="list-style-type: none">1. 市役所・社会福祉協議会・調布市文化・コミュニティ振興財団等との連携による「市内市民団体、サークル等の情報整理・提供」2. 同様な提携による「市内施設情報の整理・提供」並びに、これと連動した「各種イベント情報の整理・提供」3. 市民団体を対象とした「告知宣伝支援」及び「団体間・団体内の情報伝達支援」4. 地域に埋もれている情報の整理・活用(基本計画記載:ご近所さんねっと)5. パソコンを含む情報技術や機器の講習・アドバイス等の支援
産業分野	<ol style="list-style-type: none">1. 市内事業所情報の収集・整理2. 1店1事業所1ホームページ運動の推進3. 産業活性化を目的とした企画、情報提供・収集、冊子作り等4. パソコンを含む情報技術や機器の講習・アドバイス等の支援
その他	<ol style="list-style-type: none">1. コミュニティビジネスの創出2. 上記「市民活動分野」及び「産業分野」にて行った活動をとりまとめ、地域コミュニティの活性化につながる「地域ポータルサイト」の検討3. 地域メディアの連携を図る「地域メディア協議会」の設立の検討4. 主に公的団体を対象としたホームページ制作・運営の支援5. インターネット(インフォメーション)データセンターの検討6. 「みんな de ねっとII」等、当団体の趣旨に賛同もしくは活動の目標を同じくする団体への支援・連携

活動の目標等をまとめたものが添付資料にあります。(参考資料2 - 1 参照)

CLIC のホームページ <http://chofu-clic.com/>

(2) 今後の展望

「CLIC」と市民活動・サークル活動をしていた方々や事業者等と一緒に活動する事によって、今後は、今まで補助金等に頼っていた活動・運営資金を自ら創出することが期待されます。勿論、多くの難しい状況を乗り越えなければなりません。こうしたコミュニティの新しいモデルの構築を通して、今までは無償であったボランティア活動の有償化も可能となり、活動のモチベーションを向上させる効果も期待できます。また、自主財源ができる事により、活動にも精神的にも余裕ができ、市内で資金が回っていく循環型システムができ、市全体が活性化すると思われます。

まだ、スタートしたばかりで、課題は多いが、市民・事業者等の方々が多数参加する事により、より多くの情報が行き交い、その中から新しく素晴らしい事業展開が生まれて来るものと考えられます。

CLIC は、既存団体・組織等の連合連携団体です。地域情報に関わる問題を垣根を越えて協働することにより、より利便性を高め、それぞれの本来の目的・課題解決が容易に出来るようにするために連携がなされています。CLIC としての事業は、こうした賛同組織・参加団体が担当することによって進められています。CLIC は、自らの事業と連合体として事業の 2 つの性格を併せ持っています。その 1 例として、基本計画策定委員会のワーキンググループメンバーが集まり設立された「みんな de ネット II」は、2004 年 4 月より調布 FM と提携して、毎週調布市民をゲストとして迎える、10 分程度のインタビュー番組を制作しており、CLIC の趣旨に賛同して、参加団体として活発に活動しています。FM という地域メディアを活用し、今までに数十人にも及ぶゲストとの「顔が見える」人的ネットワークや、メンバーが自らパソコンを使い番組編集をしていることは CLIC が目的とする情報化を通じた「地域コミュニティ活性化」への 1 つの手段であり、また、ゲストのインタビューを聞くことができるホームページは、市民が地域を見直すきっかけにもなりうる貴重な「人材情報」でもあります。2.4 節にその詳細を記述します。

2.4 参加団体「みんな de ネット II」の活動事例

CLIC における地域情報化事業の実践事例として、「みんな de ネット II」の経緯、特徴、活動内容などについて示します。

(1) 経緯

「みんな de ネット II」は、調布市と電気通信大学との協働で進められた「調布市地域情報化基本計画策定委員会」オープンゼミに参加した女性メンバーを中心として、2003 年 1 月に発足した「みんな de ネット」を前身とする市民グループです。この組織の活動目的は、市民自身の手による調布市地域情報の発信、紹介といった具体的活動を通して、人のネットワークを創出し、地域活性化へつなげていくことです。グループの中心となる活動として、2003 年 7 月から地域情報化の理論の実験として、調布 FM で毎週日曜日 12 時 30 分から 10 分間のインタビュー番組「それ行け！調布のおばさん」を制作し、その放送が始まりました。2004 年 4 月からはメンバーの新旧交代や活動内容の広がりを受け、「みんな de ネット II」と発展的に改名し、それに伴い番組名も「調布わくわくステーション」とし、活動内容の充実にむけて実績を重ねています。また、CLIC には設立時より参加しています。(参考資料 2 - 2 参照)

(2) 活動内容とその特徴

当初は、ラジオ番組の制作には未経験で、技術的知識もないメンバーによる活動としてスタートしました。これは勇気のいる挑戦でしたが、メンバーの熱意と現実に即した柔軟な運営でさまざまな困難を克服し、平成 16 年末には放映回数 91 回、延べ 15 時間 10 分の番組

を制作しています。(それ行け！調布のおばさん:39回×10分、調布わくわくステーション:52回×10分)

活動形態の特徴は、原則として市民のボランティアで行われる活動であること、運営は会員の会費と寄付金などでまかなわれていること、があげられます。また放送番組は、すべて調布市にかかわりの深いゲストへメンバーが直接インタビューする形式をとっています。番組中にとりあげられる話題は、ゲストの活躍や経験、地域への有益な情報提供などが中心です。これまでゲストとして、ボランティアで活躍している方、ユニークなお店や会社の経営者、教育関係者、市役所の職員、芸術家、音楽家、スポーツ選手など多彩な人材が出演しており、調布が人材の宝庫であることも示しています。

また、番組枠が調布 FM 局の設定している、市民枠としての無償提供枠であることから、公益性を確保し、特定の政治・宗教などには関わらないことに十分配慮して実施されています。

(3) 運営法と活動成果

運営面では、電子メールやホームページ(<http://chofu.com/minnadenet/>)などの IT (情報技術) を積極的に活用して、メンバー間やゲストとの物理的な打ち合わせ時間や連絡の手間などを最小限にする工夫が積極的に行われています。また制作、放送された番組は出演者の了解のもとで放送した 10 分間の番組を、音声ファイルとして「みんな de ねっと II」のホームページ上で提供されています。これは、地域 FM 局としての時間的、地理的な受信可能範囲の制約を克服する試みにもなっています。

このような情報技術の活用は、地域情報化の重要なポイントではありますが、このグループの目的ではなく、あくまでその手段の一つにすぎません。「みんな de ねっと II」の活動で本質的に重要な点は、地域に根ざした人のネットワークの構築と、そこでやり取りされる情報の有効な活用にあります。実際の「みんな de ねっと II」の具体的成果は、ラジオ番組にとどまらず、番組に出演したゲストとその後のネットワーク形成にあります。「みんな de ねっと II」では番組へ出演したゲスト達と、放送後にさまざまな形での交流や活動の広がりにつなげているところです。

ゲスト達は、社会参画意識が高く、調布地域を舞台に各方面で活躍する人材です。こうした人材との番組出演を機としたつながりこそ、このグループの活動の真の成果といえるものです。しかもこのネットワークは番組が放送される週一度の頻度で着実に広がっていく、という性質を持っています。2004 年 9 月からは、「それ行け！調布のおばさん」、「調布わくわくステーション」に参加したゲストを中心にサポータークラブも結成されました。サポータークラブでは、編集場所の提供、機材の貸与、技術支援、資金援助、ゲスト同士での情報交換支援といった面からの後方支援が行われています。サポーターの中で、番組の広報活動の一端を担うために、市民の各メーリングリストに番組のお知らせメールが毎回送信されています。(参考資料 2 - 3 参照)

このように、様々な市民・事業者・組織の人達に支え助けられながら活動が続けられ、真の協働が実践されています。また、調布で活動中の「やあやあネットワーク」、「相互塾(特定非営利活動法人 調布まちづくりの会)」など、他の市民団体との交流、連携も模索されて

おり、それらの交流会を通して試行錯誤を続けながら、着実な実績が積み上げられています。
(参考資料2 - 4参照)

(4) 課題と展望

こうした活動が継続するには、検討すべき課題も多くあります。現状では、以下にあげるいくつかの解決すべき課題があり、外部への働きかけを含めて模索中ですが、改善の見通しはまだ立たない状況にあります。

さまざまな資源不足：人手不足・資金不足・専門知識の不足などです。これらを解決すべく、サポーター登録のお願いやサポーターの活用、CLIC の一員として活動の一翼を担うことでの資金の調達、などを試みていますが、解決には至っていません。様々な資源不足への解決策を更に詰めて考える必要があります。

放送時間の不足：「それいけ調布のおばさん」放送開始から、現在放送中の「調布わくわくステーション」まで、約1年半の放送を振り返ると、10分間の放送時間では、時間が足りないと感じられ、ゲストの持つ様々な情報を十分に伝えきれていないと思われます。これに関しては、放送時間拡大について調布 FM との交渉になります。

番組の認知度向上：中越地震の教訓からも、災害時のコミュニティ FM の存在意義は大きいです。しかしながら調布 FM を含め、「調布わくわくステーション」の認知度はまだ低いいため、「みんな de ネット」のPRとともに、「調布わくわくステーション」のPRの手法についても検討し、広く認知される様、努力が必要と思われます。

ノウハウの継承：現在、他団体との連携など、活躍の場が広がりつつあり、さまざまな可能性が出てきています。しかし、あくまでボランティアベースでの無理のない活動を安定して続け、新旧の交代がある中で蓄積されたノウハウを継承していくには、ある程度のメンバー数の確保が必要です。「みんな de ネット」のPRと新規メンバーの開拓のため、調布 FM「午後のカフェテラス」への出演、相互塾主催の「おしゃべりサロン」での実演＋講演などが行われていますが、今後も積極的な取り組みが必要と思われます。(参考資料2 - 6参照)

今後の展望としては、「交流の輪を広げる」と「活用メディアの拡大」の2つの柱が考えられています。

「交流の輪を広げる」ことに関しては、「みんな de ネットII」の無形の資産である、ゲストとのネットワークの活用があります。たとえばこのネットワークを市民のホットな情報を行き交わせる場、情報交流の要となるように活用する方法が模索されています。このような人と人との出会いが、新しい情報やまちの活力を生むと考えられます。(参考資料2 - 3参照)

また、現在調布で活動中の「やあやあネット」、「相互塾(特定非営利活動法人 調布まちづくりの会)」、「みんな de ネット」の3団体の交流会を開催し、既存の活動団体を横につなぐネットワークの構築が目指されています。これが、市民活動をしている人々の交流の核となり、調布全体に情報交換が可能なネットワークとし、市民自ら情報発信できるような形へ

の模索がなされています。

さらに、調布FMで紹介した情報に限らず、市民が持つ様々な情報を交流させ、活用できるようなデータベース(アーカイブ)の役割を、サイト上や公的施設に作り、いつでもどこでも誰でも見みられ・使えるような仕組みを、徐々に展開することが考えられています。

「活用メディアの拡大」に関しては、「ケーブルテレビでの市民制作番組」(調布わくわくステーションのケーブルテレビ版)の制作、「WEB サイトの更なる充実」、「紙媒体の活用」としてFM出演者のお話をまとめた「小冊子」の制作などが考えられています。

これらは、スキル、労力、資金などの点で、現状では直ちに着手することは難しそうですが、将来的にはマルチメディアの活用も視野に入れて、情報が飛び交う場としての発展が期待されます。

【参考資料】

- 2 - 1 CLIC 紹介プレゼンテーション資料
- 2 - 2 みんな de ネット 活動報告(2004/4～12 末まで)
- 2 - 3 調布わくわくステーションゲスト一覧表(")
- 2 - 4 番組紹介メール
- 2 - 5 三者懇談会資料
- 2 - 6 相互塾プレゼンテーション資料